

# 鬼の館

北上市立

## 展示解説シート

### 鬼の原像をさぐる おに まん だ ら 鬼曼荼羅

私達が小さい頃から昔話などで馴染み親しんできたものに、鬼があります。その中には怖い鬼もいれば、愛すべき鬼もいます。

鬼とはそもそも何者なのでしょう。辞典類を引くと、想像上の怪物。裸体に虎の皮の褌をつけており、姿は人に似ているが、肌の色が赤や青・黒などで、頭に角が生え、口・



津軽の鬼ッコ  
(青森県弘前市)

鼻・目などが特に大きく、鋭い牙を持っていて、荒々しく、人を捕らえて喰うと記されています。

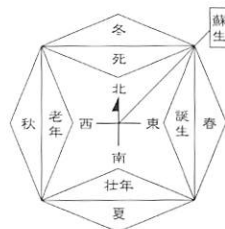
鬼の館では、その様々な姿に想像された鬼を「大人」「鬼神」「餓鬼」「妖怪」の4つに分類しました。これにより鬼の原像を探ってみたいと考えています。

## 鬼居る門

古代の中国では、世界は四角い大地からできていて、その四隅には世界の果てである門が建っていると考えられていました。

その中で東北の方角にある門は、鬼や妖怪、死霊などが出入りすると信じられ「鬼門」と呼ばれるようになりました。では、なぜ東北から鬼が現れるのでしょうか？

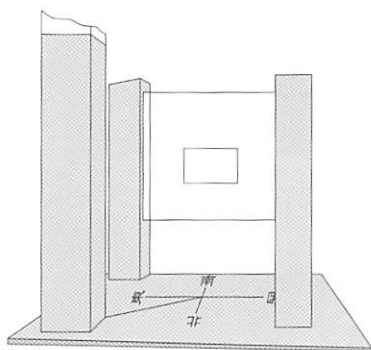
東西南北の方角、春夏秋冬の季節（時間の流れ）、誕生から死までの生命活動には、それぞれ右図のような関係があると考えられていました。（陰陽五行説）



春に誕生した生命は、成長し老い、冬に死を迎えますが、次の春には復活します。東北の方角は冬と春の節目にあたり死と誕生の接点、異界との扉が開く時です。旧暦の正月や節分はまさにこれにあたり、福の神ばかりではなく人間に害悪をもたらす悪鬼や死霊、疫病神も同時に訪れることになります。東北の遙かかなた、この世と異界との境にある門「鬼門」を通りこれらの神々がやって来ます。

「東北は鬼門」大和朝廷においても同じような歴史背景が考えられます。

東北地方は権力に従わない民、蝦夷の国でした。朝廷は、強力な力を恐れまた肥沃な領土を求めため「悪鬼・妖怪が住む東北は鬼門」を攻撃の口実として利用したのです。



## 大人

弥五郎どん 鹿児島県曾於市大隅町岩川八幡神社蔵

弥五郎どんは岩川八幡神社の秋祭り「ホゼ」の中に登場し、御神幸の先導をします。身の丈が4.85メートルもある大きな人形です。巨人信仰の名残りをみることができます。



酒呑童子「酒呑童子絵巻」サントリー美術館蔵  
酒呑童子は丹波国大江山に棲む鬼です。都の貴族の姫君をさらい喰うために、帝が、源頼光らに鬼退治の勅令を下し、毒酒を盛り、退治しました。

土蜘蛛「土蜘蛛草紙」東京国立博物館蔵  
土蜘蛛とは朝廷に従わないまつろわぬ土着勢力を人間以外の存在、つまり土の中に棲むクモのたぐいとして呼んだものです。

悪路王 鹿島神宮蔵  
悪路王は、アテルイなどの蝦夷の族長を象徴した伝説上の人物。「悪」は本来抜群の体力と能力を持った者への称号でしたが、いつのまにか恐ろしい悪鬼へとすり替えられてしまいました。

蝦夷「清水寺縁起絵」東京国立博物館蔵  
古来東北地方の肥沃で広大な土地は、大変魅力のある土地でした。そこで中央政府では「まつろわぬ者」として討伐の対象としました。

## 鬼 神

役行者像 岩手県北上市伍大院蔵

山岳信仰と密教的信仰とが習合した修験道の開祖といわれた伝説上の人物。大和国葛城山中に住み修行を積み、吉野の金峰山や大峰山を開きました。

早池峰神楽の小山の神 岩手県花巻市大迫町岳  
早池峰神楽は岳神楽と大償神楽があり、お互いに特徴ある舞を伝えています。小山の神舞は出の神舞の裏舞です。山の神面は、大償は阿、岳は咩の対となっています。

柴鬼神 山口県岩国市  
柴山を守る鬼神。荒平・提婆などとも呼ばれます。柴を持ち去ろうとする神をとがめますが、神の力の前に敗れて、守護神となって悪魔払いを行います。手には、若返りや再生を司る「しはんじゃう(死反生)」の杖を持っています。

ナマハゲ 秋田県男鹿市  
ナマハゲは、小正月の夜に訪れる者、春来る鬼。わらでできたミノケラ装束を身につけ、大きな鬼の面をかぶり、手に包丁などをもち、奇声をあげながら各家庭をまわります。

風神・雷神 妙法院三十三間堂蔵  
自然の猛威である風と雷の神格化したもの。得体の知れないモノを鬼形とする考えは、多く見られます。

遮光器土偶 盛岡市手代森遺跡出土・文化庁蔵  
縄文時代の祈りの道具。土偶の多くは身体の一部をこわされ、捨てられた状態で発見されています。また、土偶は一般的に女性を表現しています。これは再生と豊饒を意味していると考えられます。

山童 松井文庫蔵  
やまをとこ 国立国会図書館蔵  
九州の深山には山童とよばれるものがいて、童顔で、全身細毛におおわれ、脚は長いのが人語を話し、人には危害を加えません。



鬼剣舞 岩手県北上市二子鬼剣舞  
鬼剣舞とは、五穀豊饒、天下泰平、悪魔退散を祈念しつつ踊る念仏剣舞です。

奉炉神 東大寺二月堂  
仏前の線香立ての脚となり捧げ持ち、これを守ることを使命としています。  
神仏は、肉体的な労働は行わず、すべて周りに仕える者たちが行います。神仏に仕え使役されるのが、鬼の一つの特徴的な姿です。

四つ目の方相氏 平安神宮節分祭  
方相氏は、「追儺」の行事において目に見えない鬼や疫病を追い払う鬼神です。

馬具に描かれた鬼「鬼に花籠文蒔絵鞍」岐阜市歴史博物館蔵  
馬は神々の乗り物と考えられ祭祀等に用いられました。この馬具(鞍)は、安土桃山時代の鞍に江戸時代になってから塗りと魔よけの鬼の象眼を施したものです。

摩多羅神 京都市太秦・広隆寺牛祭り  
大陸からの渡来神で常行三昧堂の守護神です。この地方を治めていた秦氏によって、もたらされたと言われています。牛祭りは五穀豊饒を祈るまつりで摩多羅神は四鬼をしたがえ、牛の背にのっておごそかに登場します。

鬼瓦 薬師寺南大門出土 京都国立博物館蔵  
鬼瓦 胆沢城出土 奥州市教育委員会蔵  
建物を守護するもの、邪を払うものとして鬼面瓦を屋根の棟端に飾ることは、ふるくは飛鳥時代から現在まで続いて行われています。

烏天狗「浄瑠璃」MOA美術館蔵  
天狗は山に住んでいる悪霊・妖怪です。天狗のイメージは、僧衣を着た鳥類の姿から、のちに山伏姿の鳥類に変わっていきました。これは修験道の山伏たちの信仰によるものです。

## 餓鬼

鬼卒像 岩手県葛巻町正福寺蔵  
人が地獄に堕ちると、閻魔の裁きを受けます。その裁きに従っていろいろな責め苦をうけることになります。その閻魔の命じる命令を遂行するのが獄卒という、いわゆる地獄の鬼です。

閻魔王 東大寺蔵  
地獄に墜ちる人間の生前の善悪を審判する地獄の主神です。

阿修羅「八部衆像」興福寺蔵  
古代インドの鬼神の部衆の名。絶えず闘争を好み、地下や海底に棲むとされています。

緊那羅「八部衆像」興福寺蔵  
天竜八部衆の一つです。馬頭人身または人頭馬身ともいわれますが、正体は不明です。美妙的な音声で歌い舞う天の神楽です。

龍燈鬼・天燈鬼 興福寺蔵  
仏像の鬼で、使役される姿の鬼です。神仏に使役されるのは鬼類と考えられていました。

辟邪絵・天刑星 奈良国立博物館蔵  
天刑星は北斗七星のうちの1つで、別名破軍星ともいいます。剣の形をしていて、剣先を指す方向を万事に不吉とされていました。この辟邪絵には、明王が鬼を食いちぎるさまが描かれています。

花祭りの神鬼 愛知県東栄町月  
在地の荒神の主で、荒ぶる精霊を従え強力な呪力を持つとされる鬼神です。神を取ることを咎め、天つ神の代理である禰宜と争いますが、問答に敗れ、従うことを認め神を与えます。そして、地を踏みしめる所作・反閨によって地に潜む悪霊を鎮めます。

追儺鬼 廬山寺鬼踊り法楽  
追儺は宮中の年中行事の一つで、大晦日の夜に悪鬼を払い、疫病を除く儀式です。この鬼祭りでは、追われる鬼としてあらわれます。

追儺鬼 神戸市長田神社追儺式  
追儺の行事で出て来る鬼です。廬山寺の鬼は追い払われるものでしたが、長田神社では疫病を追い払ってくれる鬼として登場します。

火の神・荒神「鍛冶神掛図」岩手県立博物館蔵  
荒神は火の神としての三宝荒神であり、カマドの神でもあります。また鍛冶神としても表され、この図では鬼が鍛冶の下働きをしています。



降三世明王に踏まれる大自在天と烏摩妃  
「五大尊像図」醍醐寺蔵

五大明王の一つで、三世とは過去・現在・未来の三世界と三毒の両義をもっていて「三つの世界を降伏するもの」という意味です。三面八臂の姿をもち、左足に大自在天を踏みつけ、その妻の烏摩は右足を支えています。

鉄磔所地獄「地獄草紙」奈良国立博物館蔵  
「地獄草紙」は、日本の地獄絵でまとまって遺されている最も古い作例です。現存しているものは三巻、他にも模本の二巻があります。いずれも優美な書体による詞書で、のびのびした筆の絵で凄惨な地獄の場面を表しています。



地獄絵の鬼「北野天神縁起絵」北野天満宮蔵

北野天満宮の絵巻は最も古く、しかも最も優れていて、根本縁起と言われています。僧日蔵の冥界めぐりの様子が描かれています。

薬師如来・十二神将 新薬師寺蔵

わが国では古くから薬師信仰が盛んで、法隆寺・薬師寺をはじめ多くの寺で薬師如来像が安置されています。その薬師如来の眷族が十二神

将です。十二神将は後に十二支と結び付けられ、方位の護法神となりました。

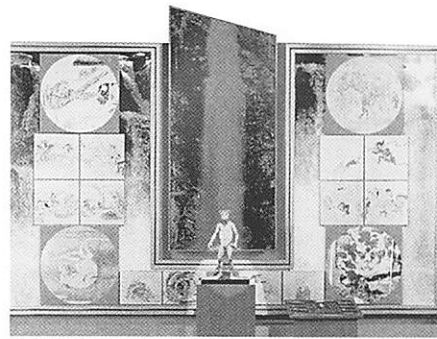
地獄の鬼「地獄双紙」川崎市民ミュージアム蔵

日本で地獄の思想が庶民の間に広まったのは、平安時代の中期です。この「地獄双紙」に描かれた地獄の光景には、あらゆる苦痛と恐怖が入っています。このようにして民衆の心に地獄は焼き付けられていきました。

## 妖怪

河童

水にすむ妖怪。子供のような姿をし、頭に皿、背中に甲羅を持つといわれています。岩手の昔話には赤ら顔の河童が登場します。



かまいたち 松井文庫蔵

道の途中つむじ風が起こり、それに乗ってきて鎌で切ったような裂傷を痛み出血もなくおわせて生血を吸う魔獣です。

百鬼夜行「百鬼夜行絵巻」真珠庵蔵

琴や琵琶などの楽器の妖怪や、鍋・釜・傘などの生活用品の妖怪、それに赤鬼・青鬼等々

妖怪<sup>たまものまえ</sup>「玉藻前」玄翁和尚縁起」常在院蔵

玉藻前は、唐の国からきた九尾の狐が化けた美女です。陰陽師安倍泰成に調伏され正体が明かされた後、下野国に逃げましたが、関東の武士に射殺されました。その死骸が那須野にある殺生石です。

一つ目「妖怪絵巻」京都大学附属図書館蔵

妖怪百物を語りあううちに実際に妖怪が現れる絵巻。その一番初めに現れたのが一つ目です。

山婆 松井文庫蔵

背が高く奇声を発し、白顔で赤髪毛が長く垂れ、瞳は緑色で鋭く、口は耳まで裂けているといえます。人を食う者もあれば何もしない者もいます。

化物「化物婚姻絵巻 盃の図・誕生の図」松井文庫蔵

熊本藩八代城主の松井家代々に秘蔵されてきた妖怪の世界の婚礼を描いた珍しいものです。媒酌人が嫁の家に婚姻を申し出るところから始まり、出産祝の後に夜が明け、太陽に驚いて逃げ去るところまで描かれています。

さまざまな妖怪が闇の中をかっ歩し、太陽が昇り始めるといずこへか消え去っていきます。

うぶめ 松井文庫蔵

出産のために死んだ女性が現世に心を残して妖怪となって現れた姿です。鳥の姿をしているともいわれています。

ぬらりひょん 松井文庫蔵

ひょうたんなまずのようなつかまえどころのない妖怪。瀬戸に伝わる海坊主のぬらりひょんは、頭大の丸い玉を浮かべ、舟からとろうとするとぬらりぬらりと浮き沈みして、人をからかうといいます。

化猫「東海道岡部宿猫石由来図」大阪城天守閣蔵

猫が妖怪化する話はたくさんあり、年の功を経た猫は人にあだをなして、人を食う魔猫となるといいます。

鬼の衆「融通念仏縁起絵」禅林寺蔵

融通念仏宗の開祖である良忍が、融通念仏感得の由来から説きおこし、入滅後の奇跡や、さらに念仏の利益などを列挙したものです。2巻本として中世に大いに流布しました。

北上市立 鬼の館 展示解説シート

北上市立

鬼の館

〒024-0321 岩手県北上市和賀町岩崎16地割131番地

TEL 0197-73-8488 FAX 0197-73-8508